

第280回くらしの植物苑観察会 令和4年7月23日(土)

「佐倉城址公園の地衣類」

坂田 歩美 (千葉県立中央博物館 植物学研究科研究員)

地衣類には名前にコケとつく種類が多くあります。名前にコケとついていても一般的にコケとして認識されているコケ植物の蘚苔類とは全く別の生物です。蘚苔類は葉緑体を持っていることから、維管束植物に近い仲間です。一方、地衣類の体の中を覗いてみると、菌類と藻類が見られます(図1A)。菌類は藻類に水などを提供し、一方、藻類は光合成産物である糖アルコールを菌類に与え、互いに助け合いながら生きています。地衣類は菌類と藻類が共生関係を結んだ複合生物です。木や石、地面の上など様々なもの上に生育します。世界中に広く分布し、南極、砂漠、海岸などの厳しい環境にも生きています。種類によっては都市部でも道端のコンクリートや街路樹の上で見ることができます。身近な場所にも生育している生物にも関わらず、その存在は一般にはあまり知られていません。ところが、日本文化の中には地衣類が度々登場します。生け花の花材として使われる苔松や苔梅の苔も地衣類です。また、能舞台の鏡板の老松の上に描かれる苔も地衣類だと言われています。

千葉県北部の下総台地中央部に位置する佐倉城址公園では約30種の地衣類が見られます。これらは千葉県の街中から郊外にかけてよく見ることができる種類です。このうち、葉状地衣のウメノキゴケ科や広義ムカデゴケ科の多くはルーペで観察することで種類を区別することができます。痂状地衣のチャシブゴケ属やモジゴケ属の仲間は外見だけでは種類を区別することは難しいですが、ルーペで拡大してみると、個性的な形をした子器を観察することができます。



図1. 地衣類. A: マツゲゴケの地衣体断面 B: 葉状地衣のウメノキゴケ(中央)とハクテンゴケ(左右) C: 痂状地衣のコフキモジゴケ

.....

次回予告 第281回くらしの植物苑観察会 令和4年8月27日(土)

「続・外国人がみた変化朝顔」 仁田坂 英二氏

九州大学大学院理学研究院准教授

13:30~15:30 国立歴史民俗博物館講堂

要事前申込 定員66名 *定員を超えた場合は抽選となります。

《申込方法》申込方法は歴博ホームページ又は右上のQRコードからご確認ください。

